

事業活動報告 事業所名 かめおか作業所

1、2023年度 事業所方針						
<p>「はたらく」を通して、ゆたかに「いきる」</p> <p>①誰もが安心安全に働き、活動できる環境・空間を保障します。</p> <p>②「はたらく」場面を通じてやりがいや可能性の広がり創造します。</p> <p>③メンバーのあたりまえの「生活」を支えます。</p> <p>④「地域の作業所」として地域に根付いた取り組みを進めます。</p> <p>⑤メンバーの思いに寄り添える職員集団をめざします。</p> <p>⑥ビジョン2025の具体化をめざします。</p>						
2、利用者・職員状況						
<p>○利用者：定員60名 現員60名（男性30名 女性30名）</p> <p>○職員：18名 正規9名 非正規7名（所長1名 主任1名 支援員11名 厨房職員3名）</p> <p>○作業グループ</p> <table border="0" data-bbox="183 913 1177 1048"> <tr> <td>食品加工グループ：味付け味噌、ピクルス、食料品梱包等下請け</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>縫製クラフト・農作業グループ：ふきん、バッグ、ペンケースなど</td> <td>13名</td> </tr> <tr> <td>下請けグループ：お菓子の袋詰め、DM封入発送、箱折りなど</td> <td>35名</td> </tr> </table> <p>・2023年度は第三かめおか作業所へ2名の異動がありましたが、新たに2名の支援学校卒業生と地域から2名の新メンバーを迎え61人の集団となりました。しかし、8月に昨年度から利用されていたMさんが急逝され、年度末で利用者数は60名です。</p>	食品加工グループ：味付け味噌、ピクルス、食料品梱包等下請け	12名	縫製クラフト・農作業グループ：ふきん、バッグ、ペンケースなど	13名	下請けグループ：お菓子の袋詰め、DM封入発送、箱折りなど	35名
食品加工グループ：味付け味噌、ピクルス、食料品梱包等下請け	12名					
縫製クラフト・農作業グループ：ふきん、バッグ、ペンケースなど	13名					
下請けグループ：お菓子の袋詰め、DM封入発送、箱折りなど	35名					
3、2023年度の実践内容と成果						
<p>・昨年度からの課題である作業会計は今年度も赤字で進んでおり、1月末で-120万となっています。特に前半期は職員の療養など職員体制の不安定さから仕事の依頼を断らなくてはならないケースもあり、後半期は新たな仕事も請け負い赤字が解消できるように進めてきました。</p> <p>縫製クラフトでは10月末から「お守り袋」作業が始まりました。まずは裁断からで、慣れない生地には戸惑うこともありましたが、慣れてくると数をこなせるようになり、単価こそ安いものの少しずつ収益も上がってきています。現在は縫製の作業の話を進めているところです。単価が良い作業でもあるので、たくさんのメンバーで関わるようにミシンの練習など始めています。</p> <p>食品加工では、原材料の見直しや置き売り先の新規開拓などを進めていくことで、昨年度より収益増となっています。また、専門企業の協力の下、京都府の助成金を使い加工品の販売サイトやチラシを作成しました。今はできるだけ早く活用ができるように準備を進めています。下請けでは、安定的に仕事が入ってきているものの、ダイレクトメールの数が減少に比例して収入も年々減少しています。更に、個別対応が必要なメンバーも増えてきていることから、一日の作業量が低下していることも収入減の要因の一つです。新規作業は、キョーセン産業から各都道府県へ発送するアンケートの封入作業を請け負いました。これまでの作業と違い、やり直しのきかない作業となっていますが、これまでの経験もありほぼ失敗もなく作業を進めることができます。安定した収入を確保し、メンバーの給料やボーナスを保障するためにも、引き続き、新規作業の獲得や単価の見直し、給与規定改定に向</p>						

けた議論の準備を進めていきます。

- ・60名のメンバーが在籍するかめおか作業所は一人ひとりに合った環境・空間づくりが数年来の大きな課題です。物理的なスペースとひとつの空間で一緒に作業をすることが難しいメンバーやメンバー同士の軋轢も増えています。そんな時はまず安心して過ごせることを第一に、落ち着いて過ごすことができる隣接グループに一時的に移動するなど、柔軟な対応で支援してきました。

今年度、新メンバーの所属グループが本人の意向ではなく、物理的なスペースやメンバー同士の関係で希望通りになりませんでした。丁寧に考えていく課題の一つです。

- ・新型コロナへの対応では、7月・12月に感染拡大がありましたが、必要な手立てを打ち、皆で乗り切ることができました。しかし、ワクチンの無料接種が終了し、これからの感染拡大がどのようになるのか？コロナの発症は非常に個人差が大きく中には無症状の人、後遺症が長く残る人もいます。障害のある方、基礎疾患のある方、高齢の方の多い事業所では、重症化や後遺症の危険性に目を向けていく必要と今まで以上の予防取り組みが必要になります。
- ・また、高齢化、障害や疾病の重度化に加えて、大病を患ったメンバーなど、医療との連携はこれまで以上に必要となってきています。些細な変化に気づく力を大切に、必要な時に必要な支援が行えるように作業所として何ができるのか、誰もが安心した生活が送れる仕組みづくりを他事業所と連携しながら早急に考えていく必要があります。
- ・新型コロナも5類に移行したことで、作業所内や地域で行事・取り組みが多く再開しました。4年ぶりの開催となった地元蕪田野町の運動会では、地域の皆さんと一緒に汗を流しました。蕪田野小学校のマラソンでも1～3年生と一緒に走りながらエールを送りました。後半期も亀岡ハーフマラソンの沿道応援や地元蕪田野町の餅つき大会、近隣の大谷高校野球部の皆さんとの交流など楽しいひと時を過ごしました。出向いた先々での交流に、地域とのつながりを実感しています。

また、昨年に続き、日帰り旅行も3コースに分かれて楽しみました（姫路セントラルパーク、日清カップヌードルミュージアム、舞鶴ほのぼの屋・赤レンガパーク）。雪による延期もありましたが、久しぶりの京都府外へのコースもあり、準備の段階から楽しそうな様子が印象的でした。

- ・職員集団としては、長期の療養や退職などがあり、会議や研修等学びの場の保障が不十分だった一年です。しかし、事務センターからの応援を含め、皆で助け合いながら乗り越えてきました。来年度はこれまでの連携をさらに強固なものとし、一人ひとりが互いに認め合い、学び高まり合う職員集団をめざしていきます。

4、次年度への課題と取り組むべき実践内容

- ・メンバーの給料やボーナスを保障するため、作業単価の見直し、新規作業の獲得、給与規定の改定など一年をかけて丁寧に進めていきます。
- ・誰もが自分らしく働くことができるように、現在のかめおか作業所のソフト、ハード面を見直しながら新たな空間、環境づくりを模索していきます。
- ・ビジョンにも掲げている「メンバー一人ひとりに合った“はたらく”を創造する」「地域の中で生きづらさや困難さを抱えている人たちの居場所になるような事業所をめざす」ことへの具体化を進めていきます。
- ・お互いを尊重し、何でも言い合える関係づくりを大切にメンバー一人ひとりの思いや願いに寄り添える職員集団をめざします。